

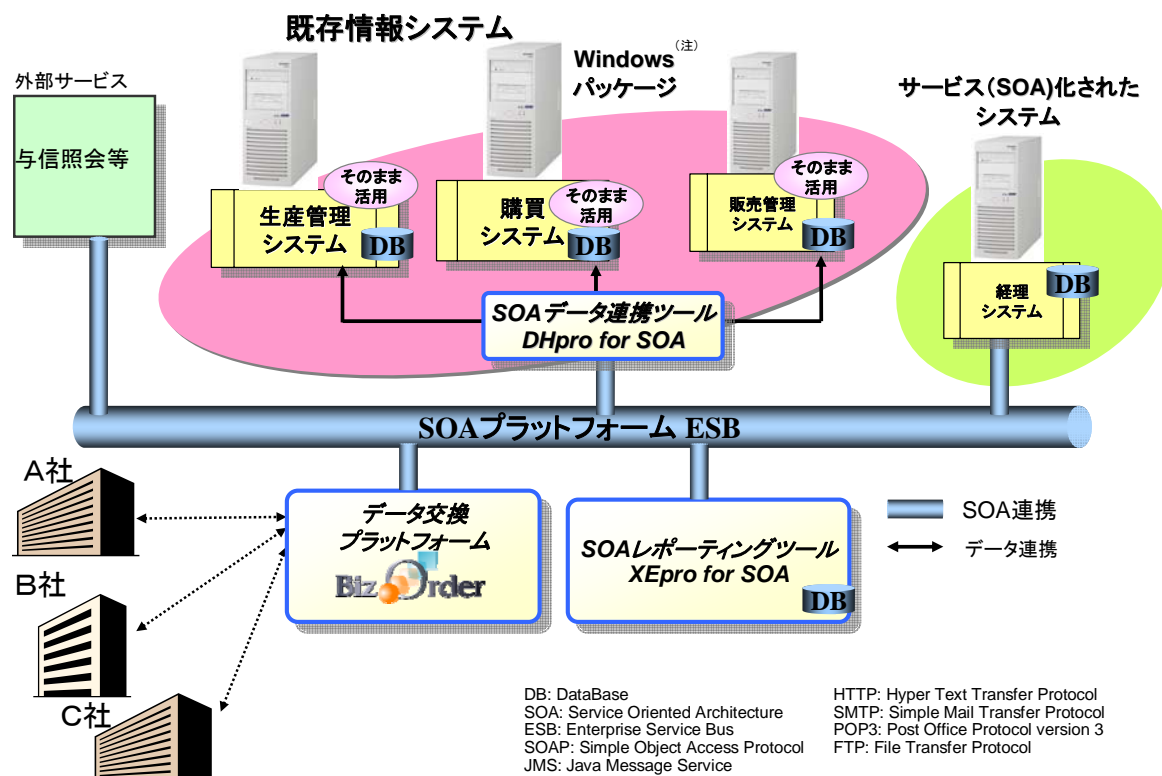
既存 IT 資産を活用し全体最適化を実現する “SOA プラットフォーム ESB”

“SOA Platform ESB” for Realizing Total Optimization with Existing IT Resources

SOA はアプリケーションプログラムをコンポーネント化し、これらを組み合わせることで情報システム全体を構築する設計手法として注目されている。(SOA ではこのコンポーネントをサービスと呼ぶ)。SOA によるシステム構築は、既存アプリケーション資産の有効活用、変化への迅速な対応、業務プロセスの可視化などに効果がある。

ESB はサービス間のメッセージ交換により SOA を実現するミドルウェアで、SOA に基づくアプリケーション統合のインフラとして、メッセージのプロトコル変換、データ変換、さらに、メッセージのルーティングやキューイングなどをサポートする高機能なミドルウェアである。

“SOA プラットフォーム ESB”は、SOA の基本的なプロトコル(SOAP、JMS、HTTP)に加え、メール(SMTP/POP3)やファイル転送(FTP)などの既存プロトコルを標準でサポートしている。さらに、ファイル入出力、フロー制御、外部プログラム起動、文字コード変換など多数の実用的な機能も提供する。これにより、情報システムの SOA 化にすぐ適用できるとともに、関連製品である SOA データ連携 DHpro for SOA などと組み合わせることで、SOA 化が困難な既存アプリケーション資産の SOA 化も可能としている。



“SOA プラットフォーム ESB”を中心としたシステム構成例

<取り扱い: 三菱電機インフォメーションテクノロジー(株) TEL:03-6414-8052>

(注) “Windows” は、米国 Microsoft Corp.の米国及びその他の国における商標又は登録商標である。